

事例9

社会福祉法人讃良福祉会 (大阪府寝屋川市)

妊娠を一緒に喜ぶ、 アットホームな職場づくりを意識

妊娠の症状は人それぞれであり、臨機応変な対応や女性労働者が申し出しやすい雰囲気づくりを心がけている。安心して出産、復帰してもらうために、休みやすい規定は重要との考えのもと、休暇等を充実。健診等はすべて特別休として有給対応している。

医療・福祉



事務主任 松下 正美さん



事業内容:

知的障害の方の支援、
授産活動。

社会福祉事業団体。

正社員数:

女性21名、男性14名、
計35名

契約社員・パートタイム・ 派遣社員数:

女性6名、男性4名、
計10名

(2018年12月時点)

過去5年間の妊娠・出産者数、 産休・育休後復帰者数:

妊娠・出産者数5名、
産休・育休後復帰者数5名

設立年月:

2001年4月1日

URL:

<http://sanra.info/>

女性労働者の職務内容:

事務主任



体調がつかない時は、医務室のベッドで横にならせてもらった

職場環境の整備と効果(人事・労務部門担当者から)

健診等はすべて有給で規定

妊娠中は出血や入院など予期できないトラブルが起こることもあり、妊産婦健診は賃金の心配なく休める有給として規定。もともと、福祉事業に関わる仕事柄なのか何かの時にはお互いに受け入れ、フォローをしてくれる職場の雰囲気があり、安心して元気な赤ちゃんを産んで再び復帰してもらうためにも休みやすい規定は重要と考えている。

働きやすいと感じてもらい、妊娠・出産しても復帰してほしい

今はどこも人材確保が厳しい状況と思うが、私たちの業界は特に厳しい。特別休暇やその人に合わせた臨機応変な対応をすることにより、「働きやすい」と感じてもらいたい。働きながら妊娠・出産し、復帰する方がほとんどであり、妊娠＝退職と考える人はいないと思っている。

妊娠中の仕事上の工夫・職場からのサポート(女性労働者から)

妊娠を共に喜んでくれる上司。理解のある職場。

上司に妊娠報告をした時にとっても喜んでくれた。もともと「子どもができることは良いことだ」という考えの方で、喜んでもらったのは嬉しかった。また、周りも、体調が悪い時は、「好きなように休んで」という感じだったので助かった。1人目の時は出血をして2週間休み、2人目の時は子宮口が開きやすいと2カ月入院、3人目の時は手術で2週間入院した。場合にもよるが、特別休暇にしてもらえたというところはとても大きく、ありがたかった。

自己管理で体調にあわせて勤務できた

妊娠中はつねに配慮してもらったと思う。自宅はすごく近いが、通勤時間をずらしてもらったり、事務なので、自己管理で体調に合わせて勤務できた。昼食の給食もちょっと減らしたり、食べやすいようにしてもらった。

ソファや医務室のベッドで横にならせてもらった

妊娠中、気分が悪くなった時等は適宜、休憩を取らせてもらったり、医務室のベッドで横にならせてもらった。作業場に参加されている障がい者の方が体調が悪くなった時に利用する医務室は、ベッドやカーテンで仕切られているので、職員も体調が悪くなった時はこちらで休むことができる。

今後に向けて

妊娠の症状は人それぞれ。働く女性の立場を考え、安心して妊娠・出産できる職場でありたいと思っている。